

樋管上屋のデザイン

業務部

岐阜県加茂郡坂祝（さかほぎ）町地区において、建設省の木曾川河川改修事業により、排水樋管が築造され、その樋管上屋に珍しい鬼瓦が据えつけられ、日本ラインの船下り観光客の目を楽しませている。この樋管上屋のデザインを紹介する。

この地域は、美しい豊かな自然環境に恵まれ、木曾川沿岸を中心として河川や山の美を誇る「飛騨木曾川国定公園」、文化財の「名勝木曾川」に指定されている。この坂祝町付近は、自然河岸による狭窄部を形成し、水の流れや連続する奇岩の眺めの美しさから、「日本ライン」の愛称を与えられ、古くから多くの観光客に親しまれ、中部地方を代表する景勝地、観光名所となっている。

自然環境に恵まれ、河岸沿いの地形も自然河岸の坂祝町、美濃加茂市ではあるが、この一帯が昭和58年9月洪水（台風10号）により、市街地部の殆どが軒上に達する程の未曾有の災害を受けた。

この災害に対して同年11月に激甚災害対策特別事業が採択され、直ちに着工し、昭和63年度に完了している。一連区間の下流部である坂祝町の約3kmは平成元年度から木曾川河川改修事業として実施されている。



写真一 岩組護岸と排水樋管



写真二 上屋と展望台

排水樋管の設置箇所を含むこの改修事業区間は国定公園名勝地に指定されており、担当している建設省木曾川上流工事事務所は河道内を含め河川沿岸は保全すべき自然景観として位置づけ、実施に際して事務所にシビックデザイン検討委員会を設置し、写真一、2のように堤防護岸は地場産出の岩石を素材にした岩組護岸や以下に述べる樋管など種々工夫している。

樋管のデザインは、色調は自然環境と調和させるように目立たない自然石色、形状はできるだけ固さを和らげるため上屋を寄棟造り、樋管の管理と併せて展望台を設け奇岩や豊かな水の流れを眺望できる視点場として、さらに坂祈町の特性を生かすことから上屋の頂部に鬼瓦を据えている“鬼瓦を上屋の上のせたら”のそもそもは名勝地でまり、それに調和して、かつ坂祝町の特性を表現できるようなものはないかと坂祝町と懇談し、その中から坂祝町は、昔から良質の粘土を産出する瓦の有数の産地で、しかも、神社仏閣用の特殊な瓦を全国に出荷していることでも有名であり、「地場産業のPRもかねて是非鬼瓦をのせて？」が発端であった。

鬼瓦は、厄よけの意味もあり東西南北どの方向へも効果があるといわれ、通常は屋根に1面のものを2～18個を端部にのせるのが多いが、上屋の鬼瓦は4面のものをつくりその一個だけにした。写真三のように鬼瓦は上下2つの部分にわかれ、下の部分は塔などの建物の頂部に使われる「露盤宝珠」といわれる瓦のベースの部分、上は鬼瓦の顔を模したものからなっている。



写真三 鬼瓦

この鬼瓦は、この道40数年一筋という兼子武雄さんの手によるもので、いったん据えた鬼瓦は、素人には立派に見えるが、兼子プロの目からみると樋管全体の景観、眺望全体のバランスからすると満足できない、いわゆる職人オタギから、自分が納得するまで時間をかけ損得抜きで完成させたというエピソードを聞かされ、本当に“兼子さんご苦労さん”といいたい。